

No. **125**
2026/9/1

京都 S K Y 大学同窓研修会会報誌 白露

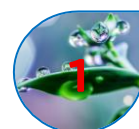
ざんぐり



ミニ講座行事予定（プラネタリウムHPより）
京都市青少年科学センター10月2日（金）開催
「遥かなる島を目指して～星を使った航海術～」

❖ 白露：二十四節気のひとつ、日中の暑さはまだまだ厳しいものの朝晩になれば冷え、葉の表面に露が表れて白く輝く時期

-
- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| ・バス研修旅行報告 2 | ・新見聞レポート 8、9 |
| ・地域活動清水焼絵付け体験報告 . . . 3 | ・Small talk room（ちょっとしたお話し） |
| ・京（みやこ）余話 4、5 | 10、11 |
| ・SKY 大学新コース体験報告 6 | ・事務局だより 12 |
| ・特別講座ご案内 7 | |
-



2026 初夏のバス研修旅行 奈良県大和郡山方面



5月25日 小林 久子

5月25日早朝から初夏を思わせる空は雲ひとつなく、どこまでも晴れ渡り今日の奈良方面バス研修の旅を暗示してくれているようです。京都駅八条口、8時30分予定通り出発しました。一路高速道路を目的地目指して走り、9時40分頃大和郡山市に着きました。

下車後、班別に地元のガイドさんの案内で郡山城跡へ進みました。地元愛に満ちたガイドさんの説明は細やかで行き届いたものでした。ゆるい坂道を天守台まで登り、日差しに汗ばみながらも全員到達しました。足元ばかり見つめ歩いていた目線を上げる前の眺望は



声を上げる程でした。若草山、東大寺の伽藍の藁、薬師寺の塔と藁の棟、目の下の大和の城下町。紀伊、和泉、大和を支配する拠点として秀長の重責は大きかったのでしょうか。

その後、大河ドラマ館へ。平日ですのに館内は人の波で順番を待ちながら案内者の後を進みました。NHKの大河に寄せる地元の熱



量に圧倒されました。

昼食は街道ぞいの「ばんか」と云う和食処でした。午後は天理市の「シャープミュージアム」の見学です。説明係の女性は洗練された語り口で創業から宇宙までの商品を的確に解説して頂きました。シャープペンシルがこちらの発明である事を知りました。一本お土産に購入しました。



最後は山の辺の道「石山神宮(いそのかみじんぐう)」へ。暑さの中、大和盆地の中央東寄り龍王山の北西麓の高台へ。境内は常緑樹に囲まれ、神さびた自然の姿を残す日本最古の神社は木漏れ陽の中、重々しく鎮もり、立ち竦みま



した。境内から山道に入り「山の辺の道」の標識まで歩きました。

折り返し集合の場所まで山路を進み予定時間にバスに乗り込みました。

帰路は京奈和道を走り京都へ。夕日にそよぐエノコロ草の群生を目で追いながら平和に感謝しつつ奈良の旅を終わりました。



清水焼絵付け体験と清水焼団地の散策

夏真っ盛り、祇園祭・後祭り山鉾巡行日の7月24日、清水焼の絵付け体験を行った。

当日は暑い日差しの中、12名の方々に参加者をいただき、館内はクーラーの効いた涼しい部屋で、1時間程度の時間をかけ参加者の皆さんが一心に筆を走らせ、思いおもいの図



柄を描いた。

清水焼団地内の「清水焼の郷会館」に集合し、受付の後に担当者の方より注意事項の説明があった。



まず、湯飲みの素焼きに鉛筆にて下書きをする。その際、書くのを間違ってもそのまま無視して描いてくださいとのこと。理由は、焼いたとき

に鉛筆の描いた線は高温で消えるとのこと。

その次は、下書きを筆

にてなぞり完成させる。

工程はいたって簡単であるが、

いざ筆で描こうと

すると、太いところ

ろ、細いところの加

減が難しいようで、

下書きそのままの絵柄とはいかず、皆さん苦労の様子。

焼き上がりが一色なので花の絵などは華やかさには欠けるため、寂しい感じになるかも知れませんが、皆さん楽しく真剣に取り組ん



でおられた。

出来上がりの

作品は、その

後、担当者により「飲み口

部分の装飾」

「釉薬を塗り」

「焼く」の工

程を経て完成。

焼きの時間は15時間から16時間、燃焼温度は1260℃とのこと。

そこから徐々に冷ましてようやく完成！！

他の方の器もまとめて焼くため発送は9月頃になるとのこと。



おそらく「ざんぐり

125号」が届くの

と同じ位のタイミン

グで作品も届くので

はないでしょうか。

届けば、その湯飲

みでお茶を飲もうか、それとも飾っておこう

か……

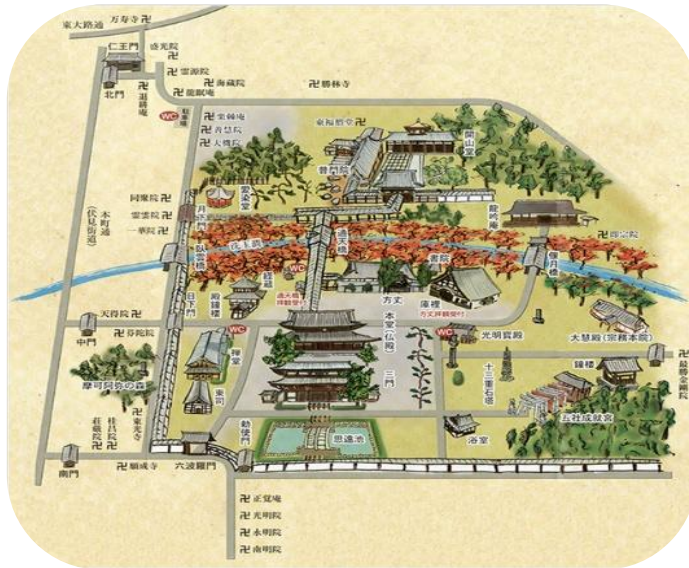
楽しみは尽きない。

皆さん作品の到着が待ち遠しい！！

文：森下 一典



東福寺の三名橋



東福寺は、臨濟宗東福寺派の大本山の寺院です。摂政九條道家が、奈良における最大の寺院である東大寺に比べ、また奈良で最も盛大を極めた興福寺になぞらえようとの念願で「東」と「福」の字を取り、京都最大の大伽藍を造営したのが慧日(えにち)山東福寺です。嘉禎 2 年(1236 年)より建長 7 年(1255 年)まで実に 19 年を費やして完成しました。

東福寺の境内にある溪谷「洗玉澗(せんぎょかん)」を通り、三名橋の下を流れる川の名前は「三ノ橋川(さんのはしがわ)」です。三ノ橋川は稲荷山を起点として、東福寺の境内を抜けて、鴨川の左岸に注ぎます。三名橋は上から、偃月橋・通天橋・臥雲橋です。

偃月橋(えんげつきょう)

1967 年(昭和 42 年)に国の重要文化財に指定されました。「偃月」は半月よりやや細い月(弓張り月)のことです。桁行十一間・梁行一間の木造廊橋で、切妻造りの棧瓦葺です。

通天橋(つうてんきょう)

1959 年(昭和 34 年)の台風で崩壊し、1961 年(昭和 36 年)に再建されました。長さ約 26m の木造橋廊で、切妻造りの本瓦葺です。橋脚部分は鉄筋コンクリート造りです。東福寺の一番高い場所にあり、本堂からのびる通天橋から見渡す紅葉は、まさに錦の雲海のごとく素晴らしい眺めです。

臥雲橋(がうんきょう)

1993 年(平成 5 年)に京都府指定文化財に指定されました。「臥雲」には雲の中に横たわることから隠居するという意味があり、また隠居して仙人になる仙道に志すという意味があるそうです。桁行十間・梁行一間の木造廊橋で、切妻造りの棧瓦葺です。



偃月橋



通天橋



臥雲橋

なぜ？紅葉



東福寺の開山である聖一国師(しょういちこくし)が、境内にあった桜をすべて伐採させたという伝説が残っています。

桜が美しく咲くと、人々が花見に集まり酒を飲んで騒ぐようになり、静寂であるべき禅寺が修行の妨げになるような賑やかな場所になることを嫌ったということです。

華やかな桜は心を浮かせますが、一方で秋の紅葉は、散りゆく姿が無常を感じさせ、修行僧の精神を研ぎ澄ますと考えられたため、桜ではなく楓が選ばれたと言われています。

東福寺の紅葉は、「三名葉(さんめいよう)」と言われる聖一国師が宋から持ち帰ったとされる、葉先が三つに分かれた、珍しい種類の楓が植えられています、

この楓は、秋になると、燃えるような赤でなく、光輝くような黄金色に染まるのが特徴と言われています。

その他に、イロハモミジやヤマモミジが植えられています。イロハモミジは赤色が非常に鮮やかで、赤と黄金色の対比

が、東福寺ならではの色彩美を作り出しています。

現在では、溪谷を埋め尽くす約2000本ものもみじが通天橋からの紅葉の名所を生みました。

つぶやき

東福寺の臥雲橋を抜ける道が、私の通学路でした。(半世紀以上前の話です。)

その頃は、観光客はもちろんいません。静寂を楽しむような、修行の場が東福寺でした。

朝夕は、私たち、学校へ通う生徒くらいしか歩いていません。遅刻などした時などは、誰も通っていないような静かな道でした。

また、臥雲橋から東福寺の境内は、デートする散歩道でもありました。

今のような売店や拝観料を徴収する施設もありません。竹の筒だったと思いますが、心付けを入れる筒がおいてあるだけでした。

時代劇の撮影にも、度々出会いました。また、托鉢僧の姿も何度か見かけました。

秋になると、紅葉を見ながら、臥雲橋から通天橋を見上げます。

晴れた日の、木漏れ日や紅葉の間に吹く風、すべてが一致した時の美しさは、息を呑むほどでした。こんな日は一シーズンに、一日あるかなしかでした。

紅葉も今ほど、溪谷を埋め尽くすほどでなく、川の流れも見えていたように思います。

吉村 辰江



「基礎から学ぶ・山歩き入門」コースの受講

新規のコースが設定された。表題にも記した「基礎から学ぶ・山歩き入門コース」だ。

私は自力で 1000m以上の登山経験はなく、普段から山の知識、装備の知識など乏しいと思っていたので、ここぞとばかりに申し込んでみた。他のコースよりもやや高い料金設定ではあるが座学や実地での講義もあり、個人で山歩きに行く際にもその知識が十分に活かされると考え受講することにした。



第1回目は座学で「装備を考える 道具の選び方・使い方」であったが、残念ながら所用のため欠席。後日、郵送で装備品についてのリストを頂き確認をした。具体的な内容説明のリストではないが、必需品の内容が記されており、常時の携行品の内容を見ると何と23品目が記されており、その多さに驚きである。

ただ、これだけの準備をしないと山歩き、登山は危険を伴い、気温、気象の急変に対応できないのかと気を引き締めた。

第2回目は実地講座で「稲荷山・二石山」に行ってきました。伏見稲荷には何度か行きましたが、その行程とは全く別物で、東福寺に集合し、観光客も殆ど通らない裏道を進み、途中で装備品の実地講習を受けながら頂上を目指した。短時間で昼食を済ませ、頂上から少し進むと、伏見稲荷の観光客の多いエリアに到着。



さすがに外国人ばかりでテレビなどで報道されている通りの多さであった。人混みは避け足早にその場を通り抜ける。途中はやぶ蚊も非常に多くこういう場面でも装備品の中の薬品類の準備が重要であることが分かる。



第3回目は座学で「歩き方とトレーニング」でスライドを見ながら、歩くための技術、登山口での出発準備等々、全14の内容について講義を受けた。

印象に残ったのは「出発準備」だ。私は山歩きの時、ほとんど一人で行くので、特段チェックをすることなく上り始めるが、団体行動の場合は①体調＝自身と、同行者の体調の確認。体調が悪ければ行程の時間配分を考えないといけない。②コース確認＝その日の天候に見合った行程、コースか、体調の悪い人が居れば、その行程で予定通り下山できるか。この二つについてはほとんど考えたことがなかったが、単独行動の山歩きの場合においても、自身の体調、天候を出発前に十分意識して出発することが重要と認識できた。途中で引き返すことも大切な勇気であることも勉強になった。

この後の受講予定は、座学では「地図の読み方」「危険を回避する」、実地講座では「大文字山」「嵐山～烏ヶ岳」「比叡山」などが実施予定で今から楽しみである。山歩き、登山の知識を深め、安全に楽しく、長く続けられるように頑張りたい。

文：森下 一典

特別講座のご案内



老いて楽になる人、

老いて苦しくなる人

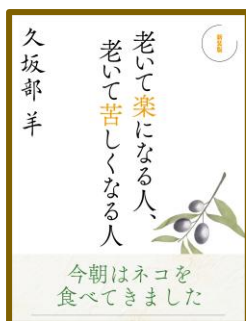
日時：2026年10月19日（月）

14時30分～16時

場所：京都テルサホール

講師：小説家・医師

久坂部 羊 氏



ごみを見つめて未来を変える

日時：2026年12月21日（月）

14時30分～16時

場所：京都テルサホール

講師：総合地球環境学研究所

副所長・教授

浅利 美鈴 氏



地球温暖化防止活動普及会のHPより

特別講座への参加申込方法

京都 SKY シニア大学の各コースを受講されている同窓研修会会員の方は、申し込みの必要はありません。大学を受講されていない会員の方は下記の要項で申し込んで下さい。

【申込期限】10月19日の講座は10月10日迄

12月21日の講座は12月10日迄

往復はがき又は、ショートメールで申し込んで下さい。

【記載内容】受講希望の講座名を一つ又は両方を明記してください、

往復はがき：住所・氏名（返信用はがきにも）・電話番号を記入して下記宛にお送り下さい。

〒604-0874 京都市中京区烏丸通丸太町下ル ハートピア京都2階

（公財）京都 SKY センター内 京都 SKY 大学同窓研修会

ショートメール：氏名を記入して、下記問合せにお申し込みください。

【問合せ先】**岩本照美** **TEL090-2285-2265**（ショートメールでの申込はこちら）

【注意事項】同窓研に直接申し込んで下さい。無料です。

特別講座の当日は同窓研の会員証をお持ちください。

！ SKY センターへの申込は、同窓研の会員以外の扱いになり有料となります

京都 SKY シニア大学 『新・京都見聞コース』

京都 SKY 大学同窓研修会 企画・運営

「新・京都見聞コース」は同窓研修会が独自で企画・運営しています。

令和8年度は、例年の訪問先からインバウンドの影響で海外からの観光客が増えて、落ち着いた拝観が難しくなったところを見直しました。受講生65名とともに、ゆっくりと落ち着いて、新たな見聞を深めていきたいと思います。

このページでは、受講生の方から受講後に提出いただいたレポートを随時ご紹介していきます。

レポート 6月24日 『藤森神社』



藤森神社と言えば「駆馬神事」を第一に思いつきます。1200年の歴史があり、無形民俗文化財に指定されているとのことです。

私たちが見せていただいた録画は迫力があり圧巻でした。藤下がり、横乗り、逆立ち、手綱潜り、一字書き等々熟練を要するものばかりで、これが現在に受け継がれていることはすごいことです。

また、ご神職様のお話が丁寧でわかりやすく惹き込まれました。

本殿中央、本殿東殿、本殿西殿と次々に案内していただき、参拝することが出来ました。

古い歴史と現代の新しさが調和されたところが魅力的でした。

紫陽花も見ごろで、特に珍しい額紫陽花はきれいでした。

雨の予報でしたが降ることもなく涼風の中、大樹の木の下で数々の貴重なお話も印象的でした。

「勝運と馬の神社」ということで、私事ですが阪神タイガースの優勝祈願で締めくくりました。



k・kさん

台風により実施が心配されたが、夜半に無事過ぎ去り予定通り実施されました。初めてお伺いしましたが、風雨により洗い浄められた清々しい緑したたる中に威風堂々たる妙満寺、その立派な姿に圧倒される想いでした。とりわけ本堂から真正面に眺めた神々しい比叡山は圧巻でした。

ユーモアを交えながらご説明いただいた中、特に心に強く残りましたのは、開祖日什大正師様の宗教者としてのあくなき姿勢（信仰のための信仰ではなく信仰に基づく実生活）と創建以来600年余大火等幾多の天災地変を乗り越えてこられたこと、さらに昭和43年今の地に大移転されたこと等々、そのお力にただただ驚くばかりです。また安珍・清姫のお話、雪の庭等大変興味深く見聞させていただきました。田舎の景色が残る叡山電鉄に揺られ、街の喧騒から離れ、自然に優しく豊かに囲まれた妙満寺、桜の季節はもとより時々心の洗濯にお伺いさせていただきたいものです。お世話いただいた皆様方に感謝御礼申し上げます。ありがとうございました。 K・Iさん



レポート 6月3日 『妙満寺』



初めてのお寺、妙満寺。ワクワクしながら拝観しました。寺域を幾度も移し、最後は昭和43年に寺町二条現在の京都市役所分庁舎や京都市消防局の敷地となっていたところから岩倉の地に移転したそうです。「雪の庭」は「雪月花の三名園」の一つで比叡の峰を借景にした枯山水の庭園で、俳句の祖と言われる松永貞徳が造営したそうです。貞徳はまた「雪の会」を催し、これにより俳諧は連歌から独立した文芸と認められ、のちに松尾芭蕉や与謝蕪村などを輩出して確立し、今日に至り、妙満寺はいわば俳句の発祥の地であることを知りました。



私たちが訪れたときは台風の影響で水をたたえた枯山水の庭となり驚きました。雪見障子から眺めるお庭はサツキの花もほとんど散り残念でしたが、冬には雪化粧したお庭を眺めていた風流人が偲ばれました。その他、安珍清姫伝説の鐘の数奇な運命のお話も聞け、描かれている絵は蛇ではなく龍の姿にも迫力を感じました。恥ずかしながら日什大正師の名も妙満寺が顕本法華宗の総本山ということも初めて知り、歴史変遷の中での今のお寺のお姿を知りました。 Y・Tさん



…雪月花の三名園…

「雪の庭」 妙満寺の枯山水の庭園

「月の庭」 清水寺にある成就院

「花の庭」 北野天満宮にあった成就坊

Small talk room(ちょっとしたお話し)

京の道草まち歩き

岡崎・ワグネル顕彰碑

木村 高志

京都・岡崎公園に立つワグネル顕彰碑は、ひときわ大きいですが、訪れる人の目を引くことはありません。この石碑がなぜこれほど立派に造られたのか。その背景には、近代京都の苦境と再生の物語があります。



明治維新後、都は東京へ移り、千年以上続いた都としての役割を終えた京都は、急速に活気を失っていきました。人口の減少や産業の停滞により、「このままでは衰退してしまうのではないか」という強い危機感が広がっていました。

こうした状況を打開するため、京都の人々は大胆な決断をします。それが、当時まだ珍しかった外国人技術者の積極的な招聘でした。その中心人物の一人が、ドイツ人化学者のゴットフリート・ワグネルです。

ワグネルは明治初期に来日し、京都で化学や工業技術の指導にあたりました。特に陶磁器や七宝、染色といった伝統産業に科学的な知識を取り入れ、品質の向上と新しい製品開発に大きく貢献しました。彼の指導は単なる技術伝達にとどまらず、「理論に基づいて改

良する」という近代的なものづくりの考え方を京都にもたらしました。

その影響はやがて、京都の産業全体へと広がっていきます。伝統と技術革新が結びついたことで、新たな産業の土台が築かれました。後に京都からは、京セラや村田製作所、任天堂といった、世界に名を知られる企業が生まれます。これらの企業の成長の根底には、「技術を大切にし、絶えず改良を重ねる」という文化があり、その源流の一つにワグネルの指導があったと考えられています。

では、なぜ顕彰碑はあれほど大きいのでしょうか。それは単に一人の外国人教師を称えるためではありません。京都が最も困難な時代に、外の知恵を受け入れ、再び立ち上がるきっかけをつくった象徴としての意味が込められているのです。いわば、あの石碑は「京都復興の記念碑」とも言える存在なのです。

岡崎の地に建てられているのにも理由があります。この一帯は、明治期に京都の近代化事業が集中的に行われた場所であり、疏水や産業施設、文化施設が整備された地域です。その中心にワグネルの顕彰碑があることは、彼の功績が京都の近代化と深く結びついていることを示しています。

静かに石碑を見上げると、そこには単なる歴史人物の顕彰を超えた物語が感じられます。都を失いながらも、新しい時代に適応しようとした京都の人々の覚悟。そして、それを支えた外国人技術者との協働。その象徴として、この大きな石碑は今も岡崎公園に立ち続けているのです。

皆さん、この顕彰碑を訪れましょう。「なぜここに、これほどの規模で建てられたのか」という視点で眺めてみると、京都の近代史の奥行きがより深く感じられるでしょう。

京の道草まち歩き

岡崎・白川児童プール 道草 歩

平安神宮の赤い大鳥居近くの琵琶湖疏水から白川への取水口に、「白川児童プール開設十五周年記念」と刻まれた石碑があります。何気なく通り過ぎてしまいそうな小さな碑ですが、実は昭和の京都の子どもたちの夏の思い出が詰まった場所です。

今では少し想像しにくいのですが、昭和 30 年代ごろの京都では、まだ学校にプールが十分整備されておらず、子どもたちは川や疏水で水遊びをしていました。そこで地域の人たちが、「安全に遊べる場所を」と考え、白



川の流れを利用して作ったのが「白川児童プール」でした。

場所は京都国立近代美術館近くの白川分流沿い。流れを上下でせき止め、夏の間だけ利用する細長いプールとして開設されました。幅は約 6 メートル、長さは約 60 メートルほど、水深も子ども向けに約 1 メートルで調整され、多くの小学生たちで賑わっていました。

当時は地域の大人たちが運営を支え、更衣場所や休憩所も用意されていました。今のよう「行政が整備した施設」というより、地域の人々が力を合わせて子どもたちの遊び場を作っていた時代でした。夏になると近所の子どもたちの歓声が響き、遠方から遊びに来る子どももいたようです。

しかし昭和 40 年代になると、学校プールの普及や水質の変化、安全面の問題などから利用されなくなり、やがて姿を消しました。それでも地域の人々にとっては忘れられない場所だったので、昭和 48 年に「川端少年補導委員会岡崎支部」により開設十五周年を記念する石碑が建てられました。

現地には、水をせき止めていた跡や川へ降りる梯子など、かつての名残も残っています。地下鉄東山駅より岡崎へ歩く機会があれば、ぜひ一度立ち止まって見てください。小さな石碑の向こうに、昭和の子どもたちの元気な声が聞こえてくるような気がします。



Small talk room への原稿送付のご案内は、
12 ページ事務局便りを参照ください



ご参加ください

これからの行事予定



2026 年		行 事 名	場 所
9 月	1 日(火)	会報誌「ざんぐり」発送	
	7 日(月)	特別講座：芸術による新たな空間の創出	京都テルサホール
10 月	2 日(金)	ミニ講座：蝶の不思議・星と航海術 詳細は同封の案内をご覧ください	京都市青少年科学センター
	19 日(月)	特別講座：老いて楽になる人、苦しくなる人 詳細は本文 7 ページを参照して下さい	京都テルサホール
	26 日(月)	秋の健康トライアルウォーキング 詳細は同封の案内をご覧ください	嵐山嵯峨野方面
11 月	6 日(金)	ミニ講座：ようこそ秋の植物園へ 生物多様性に迫る 詳細は同封の案内をご覧ください	京都府立植物園
	9 日(月)	バス研修旅行：収穫・爽やかな秋をバスで巡る 詳細は同封の案内をご覧ください	和歌山方面
	27 日(金)	ミニ講座：ゴリラ（サンタロウ）の成長記録 詳細は同封の案内をご覧ください	京都市動物園
12 月	1 日(火)	会報誌「ざんぐり」発送	
	21 日(月)	特別講座：ごみを見つめて未来を変える 詳細は本文 7 ページを参照して下さい	京都テルサホール
2027 年			
1 月	22 日(金)	からくり・オルゴール鑑賞 詳細の案内は次号のざんぐりに同封します	永守コレクションギャラリー
	25 日(月)	特別講座：いけばなの歴史と伝統 詳細は次号のざんぐりでご案内します	京都テルサホール

おしせ

いつも会報誌「ざんぐり」をご覧いただきありがとうございます。

皆さまの声をもっと反映するための、ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。

- ・ 投稿先メールアドレス：<mailto:skydosoken@gmail.com> *Word、Excel、写真は JPG 形式で
- ・ 郵送：604-0874 京都市中京区烏丸通丸太町下ル ハートピア京都 2 階京都 SKY センター内
京都 SKY 大学同窓研修会「ざんぐり」編集係宛
- ・ お名前、電話番号を明記。匿名を希望される時はその旨ご明記ください。

投稿は同窓研修会会員限定とさせていただきます。

投稿多数の場合は編集部により選考となります。原稿の返却は致しかねます。



同窓研ブログ

発行 / 京都 S K Y 大学同窓研修会

編集 / ざんぐり 編 集 委 員 会

☎604-0874 京都市中京区烏丸通丸太町下ル ハートピア京都 2 階

公益財団法人 京都 SKY センター内 ☎075 (241) 0226 FAX 075 (241) 0204



Dosoken №125